不登校児童・生徒支援事例報告書

心理的安全性に基づいた不登校対策について

不登校児童・生徒の状況

当該生徒は、中学校３年生であり、中学校入学以前からコミュニケーションが苦手であり、通級指導を受けていた。入学当初から欠席が多く、中学校２年生の１２月頃から不登校状態になり、中学校２年生の３学期は、ほぼ登校ができなかった。不登校の要因は、友人関係がうまく作れず孤独感を感じることである。

具体的な取組

○１週間に１度の特別支援校内委員会

管理職、不登校担当教員、学年担当、養護教諭（特別支援教育コーディネーター）、通級指導担当教員等が支援シートを基に生徒の情報を共有し、対応策を検討した。具体的には、担任が保護者と電話やメールでのやり取りにより生徒の状況や変化を共有し、家庭訪問をすることで本人と直接面談をした。

○学年教員・管理職・SC による不登校アセスメント

学年教員と管理職と SC が全員集まり、生徒の様子等の情報を収集・分析・共有し、SC の専門的な意見も取り入れながら生徒一人一人についての今後の対応策と方向性を確認した。

○心理的安全性の高いクラス作り

普段の生活や行事への取組を通して、たとえ失敗をしても周りの生徒が温かく見守って助けてくれるという雰囲気のクラス作りを心掛けた。それによって、「失敗しても大丈夫」という心理的安全性の高いクラス内での居場所づくりを目指した。

○SC による校内研修会

校内研修会として、SC による研修会を実施した。不登校生徒のケースを想定し、対応策などについて教員間で意見を交換したり、SC から助言ををもらったりした。

成果

チーム支援を継続した結果、当該生徒に友達と関わりたいという気持ちが芽生え、３年生へ進級するタイミングで登校ができるようになった。引き続き欠席は多いものの、修学旅行や委員会活動にも参加することができた。

課題

登校の意思はあるが教室に入れない生徒のために、校内での別室を設置し、生徒へ対応する教員または支援員を配置することが課題である。